



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

# 国祷会・お火焚祭り

2月11日(祝)は国祷会が催されます  
 世界全体の平和と豊穰を祈る行事です  
 続いて大駐車場でお火焚祭りが執り行われます

## 【2月の主な行事】

☆節分会星祭 3日(金)

一年間の善星皆来・悪星退散を祈ります

☆国祷会〜お火焚祭り〜11日(祝)10時法要

旧年のお札等・祈願矢を火に投じて祈ります

★写経会 12日(日)11時 よろづや2階

★清掃の日 15日(水)11時

★月例祈願法要 15日(水)13時

妙見様のご縁日祈願法要 開運殿にて厳修

★鷓鴣月例祭 22日(水)15時

## 【3月の行事予定】

☆報恩大祈禱会 5日(日)11時 水行・特別祈禱

12時半から大駐車場にて車両交通安全祈禱

★写経会 12日(日)11時

★清掃の日 15日(水)11時

★月例祈願法要 15日(水)13時

★鷓鴣月例祭 22日(水)15時

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも

受け付けています

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

○出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は休止

○送迎車の運行は休止

◆ケーブル&リフトは冬期運休中 詳細は能勢電鉄へ

お問い合わせ下さい。 TEL072-792-7716

### 生命に宿る仏性

桑木 信弘

冷たい冬の天気。白い息を吐きながら見上げると冬らしく煌めく星たちが澄んだ夜空に拡がっています。周囲は米を作る棚田がある為、日照以外の余分な光を当てぬように外灯も少ないので夜は暗く、沈黙の空にも静かに浮かびます。霜が降りた棚田は昇る朝日と共に濃霧となり、霧の中に輝く太陽は黄金にさえみえます。山の上から望めばそこには雲海が拡がります。

便利な都会生活にはない生活リズムと感覚。時間の流れに刻まれる社会生活に、私たちは息を切らせながらも息をしている事すら忘れてしまう日々に疲れきってしまふ事もあります。

「忙しい」とは「心を亡くす」ことだと言います。

先日、寒い中をハイキングの途中にお寺を訪れた年

輩の夫婦。大阪市内からみえたそうで本堂の前でお参りをすますと、

「能勢の自然に触れていると人らしい感覚を思い出すよ。うだ」と気持ちよさそうに伸びをして深呼吸をしながら歩いていかれました。

お寺の境内には一本の大きな古い松の木が立っています。私が能勢へ来た十年程前、その松は葉がほぼ赤くて枯れていました。

このままでは切り倒されてしまう。長きにわたり境内で檀信徒を見守って来た松。先代住職と二人で何とかならないものかと優しく撫でたり話しかけたりしました。時には手を触れながらお題目を唱えました。すると徐々に葉が緑になり始め、今では毎年、美しく緑を輝かせています。

仏さまの教えでは、すべての生き物に仏性が宿っているといます。木や草花に、人の心がけや感情に応

える生命の息吹きがあると、いうよい体験をしました。

そして、私たちの心の奥深くには蓮華の華が在ります。南無妙法蓮華経と唱える事で、心中の蓮の華が少しずつ私たちの生命の息吹きと共に開き始めます。

妙見大菩薩と心で語り北極星を中心とした星々の宇宙の息吹きと、私たちが忘れがちな生命の鼓動を感じるために、是非とも妙見山にお参りください。

### 国土

一般には領土あるいは郷土をいいますが、仏教では衆生の住む領域・世界。つまり私たちを含む生きとし生ける全てのものが住み暮らす場をいいます。自国主義を越えたグローバルな世界観です。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

### 観世音浄聖は

頼りにされれば嬉しい  
助けてやりたい気も起こる

### 苦惱死厄に於て

頼りにするのを依怙とい  
頼りになるのも依怙という

### 能く為に

嗚呼それなのに  
それなのに

### 依怙となれり

嫌な言葉は 依怙眞眞  
そこが凡夫の悲しさ

『観世音菩薩普門品第二十五』

観音様は 苦笑い

### 仏教まめ辞典

### 投機

辞典には、相場の変動によって生じる差益を得るために行う取引と説明がある。とおり、現代では経済用語として使われているが、もとは仏教用語で、機とは仏道修行をなし得る精神的な能力、また心の力や性質をいうもので、教えを説く師匠の機と教えを受ける弟子の機が相投じて冥合すること、つまりお互いの心が相通じて合致し投合することを意味する言葉である。

機は人によって違いがあるのは当然で、しかも心というものには見ることができず、捉えどころのないものである。教えを投げかける師匠とこれを受け止める弟子の、その心と心が絶妙のタイミングでぴったり息を合わせることを投機という。師と弟子の真剣勝負の世界と言えよう。

経済の先行き不安定な今、経済用語の投機もまさに真剣勝負といふべきであろうか。